

町田市議会議員・若者育成の街

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野2-2-2 2

☎042-724-2171

「保守の会」派室

自宅042-795-7361



補正予算案で中学校給食の無料期間体験

読売新聞令和元年(2019年)6月1日朝刊は、「町田市中学生 給食試食会 市が5日分提供 利用率改善狙う」と記事を掲載しました。この記事では、どういう経過で中学校給食の無料体験の実施に至る行政判断があったかを一切記していません。昨年、町田市議会は「小学校給食と同じような中学校給食の実施を求める請願」を不採択としましたが、現行の委託給食弁当が不人気であり、一度も利用したことがない生徒の割合は80%に達しており、その改善は差し迫った事態でした。



写真は、運動会に弁当持参で参加した際に撮影

この現状を打開するために、今年(2019年)の元旦、保守の会は「学校給食の無料試食実験」を提唱し、公明党も同様の主張に転換しました。今期第1回定例会の代表質疑において、保守の会白川哲也幹事長はその具体化を求めました。さらに、その定例会には、「中学校給食運用改善に関する請願」が提出され、「市の負担で学年毎に1週間の全員給食の試験運用と、運用後のアンケートの実施を求める」内容の趣旨が支持を受け、請願採択となりました。

生産年齢人口論は破たんした

日本では、15歳から65歳未満の年齢に該当する世代が生産年齢人口と称されています。それ以外の世代は、逆の意味で「従属人口」や「被扶養人口」と称されています。果たして、この定義・説明に納得できる人がどれ程いるのでしょうか。むしろ、大きな社会的問題となっている課題は、40-50歳になった世代を70-80歳代が扶養しているという現実です。



20180211 撮影の写真。市民ホール事務室

少なくとも日本の70歳(代)は十分に元気です。この写真は、昨年2月11日に撮影されたものですが、市民ホールで開催された郷土芸能大会のリハーサルのため、石阪市長が太鼓をたたきバチを握り、当時議長の吉田つとむ(当時、69歳)は拍子木を両手に持っています。当時市長はすでに70歳ですが、この直後にライバルの若手市長候補に圧勝し、4選を果たしています。その石阪市長が、「生産年齢人口」(15歳~65歳未満)という用語を頻繁に用いていますが不思議でなりません。

私は、この世代が私心を払い、全エネルギーを青少年世代の育成のために奉仕する仕事を続けるべきだと考えています。

★ 政党無所属・市議会は保守の会 mail : yoshidaben@gmail.com

URL <http://j-expert.jp/> 動画 <http://jp.youtube.com/yoshidaben>



メール送信

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ(自宅)

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

吉田つとむ

若者育成の街◆取材・記事作成・総合編集



左上はブログ
右上は新規の
ビジュアルサイト



インターン生募集中

夏季インターン生募集の案内



大学の夏季休暇を前に、その休暇中のインターンシップを希望する大学生(1年生から受け入れOK)、および大学院生の募集を行っています。対象は、町田市民、東京都民に限らず、実績から神奈川県内、埼玉県内から多数参加者を迎えています。

社会体験を目的としており、議会の会議傍聴に限らず、本人の希望に沿って、施設の見学、企業や団体への訪問を実施し、吉田つとむが同行(交通費・食事を主催者が負担)して幅広い人との面談を行います。

吉田つとむのインターンシップは1998年から実施し、現在まで86名(女子53名、男子33名)が参加する実績を持ち、体験者は就活を経て、多岐な仕事に従事しています。その就業先は一般企業社員が大半ですが、弁護士3名、教師、公務員もいます。不思議に、政治家の希望者はただ1名で、現在地方議員(2期目トップ当選)になっています。会社を創業して、今や一部上場企業の社長になった人物や、海外で仕事を展開する女性社長もいます。とりわけ、元研修生の女子は海外や国際企業で活躍する人材が目立っています。

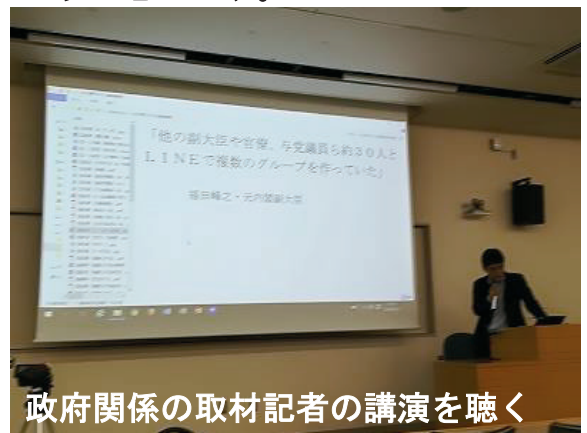
大臣の日程表が1日で廃棄!?

私も、公開費用の募金に参加しました。

大臣の日程を調べようとする情報公開請求をすることになりますが、実際に請求してみると、「その書類が廃棄された」という理由で不存在の扱いになるそうです。単なる意地悪としか思えませんが、現実には請求してみると不存在!

それでは、毎日それを請求する方法で、日程表を取得する方法が編み出されています。押しもダメなら引いてみな(大臣の日程表が1日で廃棄!)の方法です。そこで大変なのは、毎日それを個別に全部の大臣に請求する手間がかかることと、お金がかかることです。後者は開示手数料と郵送の請求書などで、1日に600円×20人分がかかり、250日分を請求すると300万円がかかることになります。篤志家が寄付をしてくれる人がいればよいのですが、一般に募集をしてそれを集める方法が提起、実施されています。

なお、首相官邸は「それを作成していない!」と日程表を「公文書」から外して、個人メモに置き換えているようです。公人の行動が隠され、政府への信頼性を自身が低めているように思います。



政府関係の取材記者の講演を聴く

★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧ください。